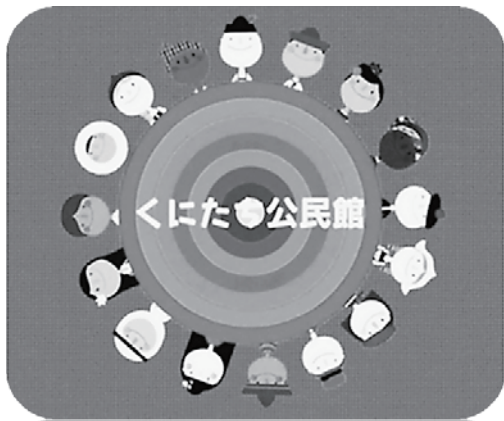


「人がつながる 世界がつながる くにたち公民館」ビデオ公開中！



市公式 Web サイトでは
このアイコンが目印！



第 671 号

2016年 1月5日

(平成28年)

迎春

* 公民館を紹介する映像ができました！

公民館に足を運んだことのない人にも公民館の活動を知ってほしいという思いから企画されたビデオです。



タイトル：「人がつながる 世界がつながる くにたち公民館」(約6分間)
URL:<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/kominkan/009216.html>
←QRコードを読み取って、ご覧ください。(公民館のWebページに移動します)
ビデオには四季折々の国立市の風景と公民館の日常の様子がたくさん詰まっています。

発行

国立市公民館

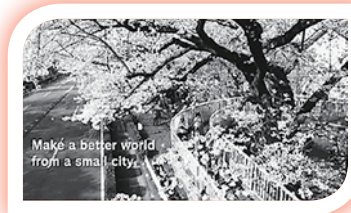
〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日



* ビデオの中では「生活のための日本語講座」と、関連の市民の活動を紹介しています。

「生活のための日本語講座」は約25年も前から公民館で行われている歴史ある講座です。外国にルーツのある方、留学生、地域の日本語ボランティアの方など、さまざまな人が公民館を拠点にして学びあっています。

それは「ともに生きる地域づくり」にもつながっています。

担当講師の声



河村双葉さん
(日本語講座講師)

国立市公民館の日本語講座を担当するようになって、もう20年近くになります。今思い出すと懐かしく、様々な光景が頭をよぎります。中国、マレーシア、スリランカ、スペイン、アメリカなど、様々な国の人がいます。日本で仕事をしている人、日本人と結婚している人がほとんどで、職場や家庭で、毎日日本語に接しています。

クラスの皆さん同士、仲がよくて、「今度私の家へ来て、私の国の料理を食べてください」「はい、食べたいです」などと、やりとりしています。冗談を言っては大笑いすることが、一日に二、三回はあります。そんな皆さんですが、ある時一人が「日本の生活は楽しいですが、時々寂しくなります」というと、「私も」「私も」と皆さん。私はちよつとショックでした。でも、すかさず誰かが、「でも、皆ここにいる人仲間です。大丈夫」というと、また笑い声があふれました。日本語講

次頁へ
続く



座は、勉強の場、楽しい交流の場となっています。この講座が日本での居場所になっていると感じます。

先日、町で「先生お久しぶりです」と、声をかけられました。最近まで熱心に講座に通っていた人です。「子どもが大きくなったので、仕事を始めます。講座に行かなくて、すみません」と頭を下げました。すると、そばにいた子どもさんが「僕、今度一年生。お兄ちゃんは四年生」と、元気に自己紹介をします。

日本は将来人口が少なくなることで危惧されていますが、日本語講座に来ていた、こんな若い人たちが、子どもたちが将来日本を支えていくのではないかと頼もしく思いました。私自身、何かお手伝いできているのかな、と思いました。

*夏休みには「にほんごおしゃべり・子育てサロン」でカレーを作りました。サロンは毎月一回、金曜日に実施。



私は、夫の留学や仕事関係で、2002年から日本と韓国を二、三年間隔で行き来する生活を送ってきました。今度の渡日は三回目になりますが、前回と全く異なる生活が待っており、相変わらず不慣れた土地に置かれたような気持ちでした。その時に私が息子の手をつないで最初に足を運んだところが公民館です。公民館には常に日本語講座や国際交流に関心を持っている方々がいるということを知っていたからです。まるで私のようなものを待っているかのような



参加者の声
鄭香美さん
From Korea

安心感がそこにはありました。あれこれ日本の生活が七年目になる私にとってその都度、私の話を聞いてくれたり理由を説明してくれたり、一緒に答えを探してくれる空間が公民館にはあります。その意味で、公民館はまさに私の強い味方です!

ある日、「にほんごサロン」で日本での経験(失敗談を中心に)を述べたことがありました。他のところだったら、自分の「言葉使いに間違いがあるのではないか」とか、「勘違いされているかも」など、お話ししながらも緊張感が走ります。しかし、「にほんごサロン」では違いました。温かい雰囲気の中、皆さんが私の立場を十分理解してくれたので、言葉使いを気にせず、自分の気持ちにも素直に話げできました。

公民館を訪ねてから、日本語講座で学び、また「にほんごサロン」でいろんな国の友達といろんなことをしながら、私は日本の生活を満喫しています。私の強い味方である公民館の皆さんとともに、外国での生活であるからこそ出来る楽しさを見つけていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。



「生活のための日本語講座」は火曜日から木曜日に実施しています。学習者のレベルに合わせてクラスを分けています。
※詳細は公民館までお問い合わせください。

- ・火曜日 朝…入門、初級Ⅱ／夜…初級
 - ・水曜日 朝…初級Ⅰ、会話 ・木曜日 朝…入門、初級Ⅱ
- 申込・問合先 公民館 ☎ (572) 5141

PVプロボノとの共同制作

今回、公民館を紹介する映像を制作するにあたり、NPO法人「PVプロボノ」にご協力をいただきました。

PVプロボノの活動目的は、「プロクリエイターの映像スキルを活かした社会貢献活動」を行うことにあります。約一年間という長い時間をかけて公民館に通い、日本語を学習する方々やボランティアの方々の声を丁寧に聞き取り、公民館活動についての理解を深めながらともに一つの作品を作り上げてきました。

次号で2月27日午後開催予定の講座「人とつながる スキルが活きる プロボノ活動(仮)」の案内を掲載します。講座では、今回の作品上映に加え、プロボノ活動を始めたきっかけや活動内容、これまで制作してきた映像作品をご紹介します。次号をご覧のうえ、ぜひお申込みください。

60人の声

— 公民館60周年に寄せて② —

公民館60周年にちなみ、公民館に縁のある60人の市民・関係者による、公民館へのメッセージ集の連載です(掲載順不同)。

新しい時代の取り組みに期待

是松昭一(国立市教育委員会教育長)

公民館開館から60年、この間、経済のめざましい発展、科学技術の高度化、高度情報化社会の進展、市民の高学歴化、ライフスタイルの変化、価値観の多様化など社会や市民意識は大きく変化しました。公民館のあり方にも変化が求められる時代になっていきます。

少子高齢社会に活力をもたらし、希薄化する地域コミュニティや弱体化する家庭の教育力の支援など生涯学習活動の振興とその成果の地域社会への還元に向け、公民館の取り組みに期待しています。

主権者として育ちあふ

荒井敏行(郷土文化館長)

／小さな手を挙げる会

公民館に出会わなかったら、主権者についてこんなに考えることがあったらどうかと思う。日本国憲法がないがしろにされ、格差社会が当たり前のような風潮に、怒りと悲しみを覚えつつ、それでも

公民館と共に歩まん

尾崎清美(くにたち中央図書館長)

仲間と前を向いて時代を切り拓くする力は、僕が公民館から貰った最大の宝物だ。
日々の暮らしの中で、学びへの渴望に丁寧に応えてくれる公民館と、それを支えるたくさんの方々が育ち合い、声が掛けられる社会に、僕はこれからも参加してゆきたい。

公民館と図書館は、共に市民の学習の機会を提供する場として市が社会教育のために両施設を設置し、言わば同志のような関係だと常々感じています。特に公民館図書室には国立駅前図書館の役割も担っていただいております。両館の連携は必須です。これからの公民館の新たな活動や事業に良い刺激をもらいながら、「市民の方々に生涯学習を！」の旗を掲げ、共に頑張っていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

映画会20年やってます

勝嶋啓太(公民館CINE VOX 映画会)

映画好きというだけで公民館の映画会にお邪魔させていただき、上映の他、作品選定、ポスター作り、パンフレット作り、公民館だよりの紹介文書き等、気がついたら20年もやっていました。かつての好青年(思い込み)も今やメタボのオッサン(現実)です。映画会も16ミリ版での上映から、最近ではDVD版やブルーレイ版での上映が増えてきて、時の流れを感じています。好きなんだけども、映写機がカタカタいう音……。

誰にでも開かれた空間

川越啓子(沙翁塾)

国立市公民館が全国に先立ち、「子育て中のお母さんに学習の場を提供する活動」の拠点になったことを、19年前国立に移り住んだ時に知りました。私にもその入口はいくつも用意されていて、「国立らしさ」を体現している多彩な自主グループの活動や公民館独自の講座に参加しています。自由闊達に意見を出し合い、お互いをより深く理解し合った上、有意義で豊かな時間を共有できる師や仲間と出会えたことを何よりも大切に思っています。

私のお薬

きたもとまさこ(詩の会)

ある日、「公民館だより」の詩のワークショップの誘いに目がいきました。病気で長い文章が読めないのに、詩ならば短くても読めるだろうと安易に思ったからでした。病気になる前から初めての地域での交流に、眠れない緊張が続きましたが、詩人の福岡先生や公民館スタッフの優しいお心遣いに緊張は、小さな意欲に変化していききました。私にとって公民館は、病気を少しずつ治すお薬のようなものです。

熟議の場としての公民館活動

隈井裕之(公民館だより編集研究委員会委員/国立せさいく所)

3年前の「公民館だより」に講座参加者の声を掲載していただいたことが、私の人生の転機となったことは間違いありません。それまでの半生を振り返り、来し方行く末を深く思い、早期退職・地域での起業という大きな決断をするに至った。国が大きな舵を切るには絶望的とも思える時間がかかる。その間も絶え間なく進行する少子高齢化という難局を乗り切るには、小さな舵を切る市民一人一人の深慮と熟議が欠かせない。公民館がその場であり続けることを切に願う。

地域デビューは公民館から

田村文栄(絆づくりの会)

公民館で「高齢社会を支える地域の絆づくり」講座に参加し、様々な経験・考えを持った人たちが真剣に取組んでいるその姿に、新鮮な驚きと刺激を感じた。また、趣味サークルでの出会いでは、挨拶や言葉を交わす人も増え、漸く国立市民の一員になれたと実感しているこの頃である。退職後、一人ぼっちの不安を抱えながらも、少し勇気を奮って公民館に通いながら、多くの人たちの交流や学びが、私の第二の人生を豊かに楽しくしてくれそうである。

公民館に期待しています

福田孝二(公民館運営審議会委員)

20年前に国立に転居してきた私にとって、公民館との出会いは「公民館だより」が始まりでした。それまでは公民館の存在すら知らなかったのですが、市民の学習への思いが詰まった公民館だよりを読むことに驚きました。しかし、地域で違いもあるのでしょうか、あまり南部地域では利用されているようには見られません。

60周年を期に、地域の状況も考慮して、公民館にしか出来ない生涯学習の機会を期待しております。

◆それいけ！公民館

藤井知子(元公民館職員)

産後うつ、SNS依存、孤立…、仕事を辞め子育てする生活の中で、現代社会の課題を目の当たりにした。もしここに国立市公民館があったらと考えてみる。近くに公共施設(直営・無料)がある安心感、人と直接に交流する場の温かさや刺激、学ぶ姿勢と活動のエネルギー。国立市民が築いてきた公民館の歴史と活気ある雰囲気は、多くの社会の課題を解決につなげる可能性が無限にあるように思わせる。今後も活力に満ちた公民館に期待している。

◆公民館との出会いで感じること

古旗真幸(公民館運営審議会委員)

私と公民館との接点は、公民館運営審議会(以下、公運審)の委員としての関わりが主です。

今年度から、右も左も分からないまま委員を仰せつかり、最初に感じたことは、「こんなに熱く真剣に議論する大人達がいるんだ」ということでした。

政治や社会に対し期待しない、どこか諦めている現代社会において、私は公民館という存在が、何かを変えてくれる可能性を秘めた「場」だと常に感じ、期待し携わっています。

◆公民館のお茶でレッツゴー

中島良一(国立カッブルズ)

濃い熱い一杯のお茶でわが家の一日が始まります。

50年程昔、木造だった旧館で婦人問題を学習した妻は、公民館活動の大切さ楽しさに目覚め、保育室に勤めていきいきとしていました。

その頃お友達から世話をしていたいたおもしろいお茶、母がそれを公民館のお茶と名付けました。

その後、私は或るサークルで公民館の世話になり、それをきっかけに、様々な学習、一時は公民館利用者連絡会世話人等も体験させていただきました。今日もまた公民館のお茶でレッツゴー。

◆公民館で活動を始めて得たもの

野田美智代(まめつちよ)

私は子どもたちにお話を語ること、子どもと本を結ぶボランティアをしています。ある時気がついてみまると自分の住む中地区にはお話をする場がありません。そこで何とか公民館で実現をと仲間と「お話会と本の展示」の活動を始めました。この10月で丸三年が経ち、利用してくださる方も増えてきました。が、この活動の中で私が何よりも敬服し感謝していることは、職員や公民館利用者連絡

会の方々の励ましやご理解です。これを無にせず、少しずつ進んでいきたいと思っています。

◆公民館に深く感謝

横田雅弘(明治大学教授)

1987年に一橋大学に着任して留学生相談を始めたが、生活面やビザなど多様な問題に途方に暮れていた。公民館と出会い、館長をはじめとした職員の方々、大学の担当職員、そして市民の方々と一緒に「くにたち地域国際交流会」を始めなかつたら、私は間違いなく挫折していただろう。明治大学に移籍して、今は外から眺めるだけとなったが、今も続くこの活動は、私の目を大学の閉じられた世界から地域社会へと開いてくれた。そんな公民館に深く感謝している。



みんなで話しあった、これからの公民館
(60周年記念シンポジウムⅡ)

〈図書室のつどい〉

イルカ漁は残酷なのか

お話 伴野 準一(ノンフィクション・ライター)

紀伊半島東側の小さな町の和歌山県太地町に国際的な非難の声が寄せられています。原因は毎年1000頭ほどのイルカを「追い込み漁」で捕らえ殺していること。安倍首相は「日本の文化であり習慣である」と反論しています。

イルカ追い込み漁は、日本古来の伝統漁法なのか。それとも、心ない残酷行為なのか。あるいは、反対する運動こそ「かわいい」イルカを殺さないための感情論に過ぎないのでしょうか。イルカを取り巻く複雑な現状を知り、どうすれば、人とイルカが共存できるのかを考えます。

〈伴野さんの本〉

『イルカ漁は残酷か』『全学連と全共闘』(平凡社新書)、『スコット・ジョブリン—真実のラグタイム』(春秋社)など

と き 2月7日(日) 昼3時～5時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名(当日先着順)

*ご自由においでください。

〈多文化共生事業〉

日本と世界の食文化

～食べ物から学ぶ世界地図～

講師 細谷 葵

(お茶の水女子大学グローバル人材育成推進センター)

2013年、和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録されました。最近では世界各国で和食のお店が多く軒を連ね、日本でも、タイ料理やインドカレーなど多国籍料理のお店を多く見かけるようになりました。今回は、お茶の水女子大学で民族考古学や農耕文化を研究されている細谷さんをお招きし、日本と世界の食文化を、文化人類学の視点から見ていきます。生活に身近な食文化から多文化共生を考えていきます。

と き 1月31日(日) 昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 35名

申込先 1月8日(金) 朝9時～

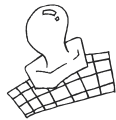
公民館 ☎ (572) 5141

〈青年室活動〉

ワカモノたちの もちつき大会

公民館の1階にある青年室で企画・運営している、若者による若者のための「もちつき大会」です。準備からみんなで一緒にやってみませんか。お気軽にご参加ください。

と き 1月24日(日) 昼2時～4時ごろ
対 象 中学生～30代の方
と ころ 公民館 南側駐車場 ※雨天実施
申込先 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



〈親子で遊ぼう・考えよう〉

しゃぼん玉で絵を描こう!!

～オートマチック画法で遊ぼう～

しゃぼん玉に色をつけたらどうなるかな? 遊びの跡が表現になります。親子でさまざまな発見をしながら、初めての表現方法を楽しみましょう!

講 師 山田 修平
(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

と き 1月31日(日) 朝10時～12時
と ころ 公民館 地下ホール
定 員 子ども(3歳から小学生まで)と保護者
14組(先着順)
持ち物 汚れてもいい服装でお越しください。
申込先 1月14日(木) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

「国土強靱化」のゆくえ

～東日本大震災から何を学ぶのか～

講 師 野元 弘幸(首都大学東京)

東日本大震災からもうすぐ5年。この間、政府や自治体では、防災・減災に向けたさまざまな施策が展開されてきました。2013年12月に成立した「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」(国土強靱化法)もそのひとつです。

しかし、防災教育などを研究する今回の講師・野元さんは、この法律には大規模自然災害への対応をうたいながらも、結果的に国民を国防のための総動員体制へと巻き込んでいく危険性があることを指摘します。あまり話題になることがなかった国土強靱化法には、どのような背景があるのか。また、平和や民主主義に根差した真に強いコミュニティづくりに向けて、東日本大震災の経験から何を学ぶのか。一緒に考えてみませんか。

と き 2月11日(木・祝) 昼2時～4時
と ころ 公民館 3階講座室 定員 35名(申込先着順)
申込先 1月12日(火) 朝9時～
公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

〈くにたちブッククラブ 記憶をたどり歴史を問う〉

中島京子『小さいうち』(文春文庫)

講 師 榎本 正樹(現代日本文学)

と き 1月14日(木) 夜7時半～9時半
と ころ 公民館 3階講座室
申込先 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

くにたち野鳥観察

—城山&多摩川周辺—



皆さんは何種類の鳥を見分けることができますか。スズメ・カラス・カモ……普段見慣れている鳥も意外と知らないことが多いかもしれません。

冬は木の葉も落ち、野鳥観察に適した季節です。今年は何種類の鳥を見つけられるでしょうか。1回目は城山周辺、2回目は多摩川周辺で観察を行います。1回だけの参加も可能です。お二人の先生のお話を聞きながら、一緒に観察してみましょう。

講 師 佐伯 元行(国立あおitori保育園 園長)
中島 徹也(くにたち野鳥観察会)

◆第1回 1月24日(日) 朝9時～12時頃

と ころ 城山周辺

◆第2回 2月13日(土) 朝9時～12時頃

と ころ 多摩川周辺

集合・解散 第1回 郷土文化館、第2回 南区公会堂

持ち物 筆記用具、お持ちの方は野鳥図鑑、双眼鏡等

定 員 15名(先着順)

申込先 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

シネボックス 公民館映画会

『男はつらいよ 浪花の恋の寅次郎』

1981年 松竹 カラー 104分 ※DVD版

監督 山田洋次 音楽 山本直純

出演 渥美清、倍賞千恵子、松坂慶子、芦屋雁之助、大村崑、下條正巳、前田吟、三崎千恵子、太宰久雄、笠智衆、正司照江、正司花江、笑福亭松鶴 ほか

大阪を舞台に、ご存知フーテンの寅さんの、笑いあり涙ありの恋の大騒動を描くシリーズ第27作。マドンナに松坂慶子を迎え、芦屋雁之助はじめ関西喜劇人が笑いの華を添える。松坂慶子の華やかな大人の美しさは、絶品!



と き 1月24日(日) 昼2時～(開場1時)
と ころ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)
*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈一橋大学連携講座〉

「クリーン」なものと「クリーン」でないもの ～今日の「不寛容」について考える～

アルコール消毒薬や空気清浄機を当たり前のように街で見かけることが増えています。脱臭・脱毛大流行、ケーブルテレビは健康グッズのCM満載。こうした清潔や健康の推奨は、都市整備や公衆衛生の歴史をふり返ると、不潔や不審とみなされたものの排除と表裏一体の関係にありました。「クリーン」なものは、今日の社会の「不寛容」に一体どのような影響を及ぼしているのでしょうか。

昨年度の教育講座「『寛容』について学び、伝え、考える」から一年。この講座では、皆さんと一緒に「クリーン」に潜む倫理観や美意識、怖れを手掛かりに現代の「不寛容」について考えたいと思います。

と き 全5回いずれも日曜日、昼2時～4時
ところ 公民館 3階集会室
定 員 30名(全回参加できる方優先)
申込先 1月6日(水)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

回	月日	テーマ	講師(所属)
1	1月17日	日常に潜む「クリーン」について	武村知子(一橋大学)／ 片岡佑介(一橋大学大学院生)
2	1月31日	言語に潜む「クリーン」について	糟谷啓介(一橋大学)
3	2月14日	〈ワークショップ〉 キレイはカタナイ、 カタナイはキレイー 一番キレイなものは何？	片岡佑介
4	2月28日	前回のふり返り	武村知子
5	3月13日	原爆映画に潜む「クリーン」について ／全体のまとめ	片岡佑介／浦野歩 (一橋大学大学院生)

来年度、保育を希望するグループは お知らせください

公民館には公民館保育室があり、公民館で活動する市民グループの中で保護者が乳幼児をあずける必要がある場合、保育を行います。

来年度(2016年4月～)保育を希望するグループ、考えているグループは1月29日(金)までに公民館へお知らせください。

〈ワークライフバランス講座〉

ダブルケアから考える家族構造 ～子育て・孫育てと介護の両立～

講師 東 恵子(NPO法人シャーロックホームズ)

仕事と子育ての両立、あるいは仕事と介護の両立が問題とされてきましたが、超高齢化、少子化、晩婚化が進む現在、子育て・介護・仕事のバランスの問題という新たな形の「ケアの社会化問題」が起きています。

今回は、子育て世代、孫育て世代が同時に親の介護も背負う「ダブルケア」の現状について、台湾・韓国など東アジアとの比較もしながら、その課題や工夫について考えたいと思います。

現在、介護者でない方も、介護が現実になった時のために、誰もが当事者になりうる課題として、考える機会にしてみませんか。

と き 2月6日(土) 昼2時～4時
ところ 公民館 3階集会室 定員 30名(申込先着順)
申込先 1月12日(火)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

はじめての銅版画

講師 山本 佳奈枝(銅版画家)
さかた きよこ(銅版画家)

興味はあるけど、難しそう? どうやって作るのかな? そんな疑問に応えながら銅版画創作を楽しむ、初心者向けのワークショップです。銅版画ならではの繊細な線で小さな作品を作ります。集まった仲間とともに作業の時間を楽しみながら、作品を創ってみませんか。出来上がった作品はロビー展示する予定です。

銅版画(エッチング)とは、銅板に描いた絵を腐蝕して版を作り、できた凹部にインクを詰めて紙をのせ、プレス機で刷る技法です。

と き 1月31日、2月14日、28日、3月13日
いずれも日曜日 昼2時～5時
ところ 公民館 3階実習室
定 員 10名(先着順)
対 象 原則休まずに出席できる方。
はじめて参加する方を優先します。
材料費 千円(ニードル、銅板、版画紙など)
持ち物 8×10cmの下絵(タテヨコ自由)、
エプロン(よごれてもよい服装)、筆記用具
申込先 1月12日(火)朝9時～
公民館 ☎ (572) 5141

「ひまわりの会」へのお誘い!!
芸大音楽卒の山岸公子先生のご指導のもとで童謡・唱歌・世界の歌を楽しく歌っています。常時見学は大歓迎。一度いらして下さい。ご連絡をお待ちしています。
日時 毎月第二、四水曜日朝10時
場所 北市民プラザ多目的ホール
連絡先 新里(57) 1062



ひまわりの会

(8ページにもあります)

新しい年を迎えて、健康と若さを保つ為に水泳を始めませんか。泳げなくても運動後は気分爽快! レベル別に公認コーチが親切に指導します。初心者歓迎。体験可。
日時 毎週火曜日 夜7時~9時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 石橋(57) 2621

水泳同好会会員募集

水泳クラブ「かるかも」募集
今年こそ、水泳で健康づくりをしませんか。免疫力アップには水泳が一番。初心者から上級者まで泳力別にコーチの指導を受けています。年齢・性別不問。体験可。
日時 毎週火曜日 昼2時~4時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 榎本(57) 5181

シルバー卓球クラブへのお誘い

健康維持と増進のため卓球を始めませんか。男性60歳、女性55歳から入会できます。上手下手は問いません。90歳超した人もいます。
日時 毎週月曜日 朝9時~12時
場所 総合体育館 第二体育室
連絡先 殿山(57) 6598

和気あいあいF1テニスクラブ

初心者も上手な人も楽しくテニスを! これをモットーに毎月2回程度、コート狭しと駆けずり回っています。お花見、夏合宿などのお楽しみ企画もあります。
日時 隔週土曜か日曜 2時間
場所 谷保・矢川・広場コート
連絡先 上林(57) 2806

〈女性の生きかたを考える講座・公開講座〉 女性のワークとライフをめぐる社会史 —国・自治体の施策を考える—

講師 跡部 千慧 (一橋大学大学院博士課程)

「施策」と聞くとなんだか遠い世界のイメージもあるかもしれませんが、私たちの身近な家族・働きかた・生きかたに、実は密接に関係しています。

戦後の家族史・労働政策史を研究し、国立市の男女平等推進市民委員会・有識者委員もつとめる跡部さんのお話を聞き、私たちの生きかたに政府・国立市の政策がどのように結びつくのか、学んでいきたいと思ひます。

後半は、国立市役所市長室の担当者に現在の国立市の施策・取り組みを紹介してもらい、これからの私たちの生きかたに思いをはせながら、今後の国立市の施策と一緒に考えましょう。

とき 2月3日(水) 朝10時~12時

ところ 公民館 3階集会室

対象・定員 女性(年齢不問) 20名

申込先 1月6日(水) 朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

協賛 一橋大学男女共同参画推進室

三原色で描く

キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第36期」の水彩画展を行います。三原色(赤・青・黄色)と白の絵の具で誰でも絵が描ける「キミ子方式」で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

※「シルバー学習室」は市内に住む高齢者の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期間 1月26日(火)~31日(日)

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

連絡先 公民館 ☎ (572) 5141

障害者センター ☎ (573) 3344

〈社会体育事業〉

「街を・山を歩く」第3回

日時 1月20日(水) 〈雨天中止〉

集合 国立駅北口 朝8時30分

実施方面 荒川区 日暮里方面(距離:約10キロ)

対象 市内在住、在勤者

チラシ 1月6日(水)から市役所3階生涯学習課、総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。

申込方法 チラシの内容を確認のうえ、(日程、コース、申込方法等) 1月7日(木)から15日(金)の期間に下記までお申し込みください。

申込・問合先 国立市教育委員会 生涯学習課

社会教育・体育担当 ☎ (576) 2107 (直通)

公民館運営審議会報告

12月8日(火) 第30期第14回定例会を開催。委員13名、館長、職員1名が出席。傍聴2名。

前回の議事録確認

協議事項

○「国立市公民館の職員体制に関する要望(案)」を委員長が提案。

公民館事業の独自性と職員の役割に十分配慮し、職員の異動については一般職員の慣例にとらわれない専門性、資格、経験年数を考慮した人事を要望する案を承認。

○諮問「国立市公民館の事業評価のあり方について」の学習会

元福生市公民館長・伊東静一氏の講義を伺った。氏は、福生市公民館で職員とともに作り上げた公

報告事項

○公民館だより編集研究委員会 12月号は「60人の声」が好評。

○社会教育委員の会

生涯学習振興・推進計画に関する諮問について、第29期公運審答申を説明した。

○東京都公民館連絡協議会

第2回研修会を1月30日に狛江市で、板橋区教育委員会の齋藤真哉氏等を講師に開催予定。

次回、1月12日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(大串)

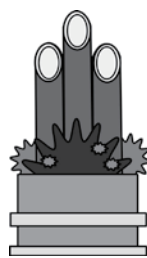
今月の公民館 (1月、2月初)

*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 14日(木)夜 くにたちブッククラブ
中島京子『小さいうち』
- 17日(日)昼～一橋大学連携講座
「クリーン」なものと「クリーン」でないもの
- 24日(日)朝～くにたち野鳥観察
- 24日(日)昼 ワカモノたちのもちつき大会
シネボックス
- 24日(日)昼 *CINEVOX公民館映画会
『男はつらいよ 浪花の恋の寅次郎』
- 26日(火)～*キミ子方式水彩画展
- 31日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
しゃぼん玉で絵を描こう!!
- 31日(日)昼 日本と世界の食文化
～食べ物から学ぶ世界地図～
- 31日(日)昼～はじめての銅版画
- 2月3日(水)朝 女性のワークと
ライフをめぐる社会史
～国・自治体の施策を考える～
- 6日(土)昼 ダブルケアから考える家族構造
～子育て・孫育てと介護の両立～
- 7日(日)昼*図書室のつどい
「イルカ漁は残酷なのか」
- 11日(祝)昼 「国土強靱化」のゆくえ
～東日本大震災から何を学ぶのか～

ひろば

(7ページにもあります)



「ラビッツ」テニスクラブ 会員募集

テニスが大好きな30～50歳代の女性の方、緑に囲まれたコートでテニスを楽しみませんか。コートでレッスン有。ゲームの出来る方。
日時 毎週月曜日 朝10時～12時
場所 谷保コート
連絡先 手塚(575) 3416

くにたちボーイズ&ガールズ ラグビークラブ部員募集

平成27年3月から、国立市にラグビースクールが誕生。幼児から中学3年まで。楽しくラグビーをプレーできます。女の子も歓迎です。
日時 水曜日・土曜日(予定)
場所 一橋大学ラグビー場など
連絡先 高坂(574) 0264

シニア・社交ダンス・入門講座

いつまでも生き生きと暮らすため一月にシニア向けのやさしい社交ダンス講習会を開催します。簡単なステップから始めます。参加お待ちしています。社交ダンス絆
日時 毎週日曜日夕5時～6時半
場所 ひかりプラザ 第二体育室
連絡先 山本(080) 3971

文章表現の会

あなたの想いを文章にしてみませんか。会のメンバーに披露して感想を合おう。こうして文章と表現を勉強しています。是非仲間になつて研究しましょう。
日時 毎月第2土曜日 朝10時
場所 公民館 3階講座室等
連絡先 森本(574) 8053

第207回くいしんぼクラブ ムンさんの韓国料理

キンパ(のり巻き)と大根のスープを作ります。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参下さい。
日時 1月30日(土)昼1時
場所 福祉会館 3階料理講習室
連絡先 八宮(571) 1007

「サークル訪問2016」

グレッグの太極拳& 気功サークル

翌朝、覚悟していた筋肉痛は皆無だった。

初めて体験した太極拳。自ら演武するグレッグ・ワインダーさんの動きを真似し、動作のポイント説明を聞きながら一時間近く、運動不足で硬くなった体を動かし続けた。とても柔らかく、ゆっくりした動きではあるが、普段は上げない高さに足を上げ、捻らない角度に体を捻った。「体の痛みを軽くし生命力を再生する」というサークルの目的は、何度も参加した後の話だろうと思っていたが、痛みどころか何となく体が軽くなったように感じた。

グレッグさんはニュージーランド出身、オーストラリアでカンフーを皮切りに、太極拳を学んだ後、合気道を修得するために来日した。以来25年の間に大学やスポーツジム、公園など様々な場所で太極拳を教えてきた。公民館で活動を開始して一年、説明はすべて英語で行われる。

グレッグさん自身、英語を話さない中国人の先生に教わったこともある。「クラスでは体の動きが八割で、理論説明は二割なので参

加者に英語で教えることは全く問題がない」と言う。

老若男女多国籍の10名ほどの参加者は、「ひろば」欄を見たり、人づてに紹介されたり、天下市で絵を売っていたグレッグさんのサークルのチラシを見たり、と様々なきっかけで集まってきた。休憩時間には、日本語、英語入り交じった楽しそうな会話が続く。

心身を整えたい方、運動の得手不得手を問わず絶賛募集中。参加費無料、参加希望者は、サークル当日、直接公民館へ。

場所・日時 公民館・毎週水曜日 夜7時～伝統的な楊式太極拳 夜8時半～羅漢気功システム

〈文・写真 隈井裕之〉



そのままキープ!